



疥のいかに苗へ入る  
 苗代もいふ  
 ○稗の中とあまのい氣  
 とまゝ腸胃とあつゝ  
 飢ととく  
 ○麥の虚とあまのい血  
 脈とさんし五さう瓜  
 実一敷を益  
 ○蕎麥の腸胃と実一氣  
 とくゝ積滯と和  
 熱腫風痛と消  
 ○菜の食と消一氣と  
 熱ととく毒と解  
 小だんと利一脹滿  
 池病とつとと  
 ○麻の女人經候通を  
 けんがう金瘡の痔を  
 治一惡血とと  
 ○紅の氣とま一腎と  
 きさの胃瓜とさうし  
 五さう瓜和一小便一  
 ら瓜とと  
 ○菘の小便と利一脹滿  
 とはささう清濁瓜治  
 吐逆と治と胡豆躰豆か  
 りび小同  
 ○菽の水腫と治一惡血と  
 さん脾胃ととさう小  
 一酒病と解一胃中の  
 然とと



本草綱目卷之六  
 穀部  
 粟  
 稗  
 蕎麥  
 菜  
 麥  
 稗麥  
 菘  
 稷  
 丹黍  
 相黍

本草綱目卷之六

○谷の水氣とト一濃  
血とろろ小便と利一脹  
満消渴と治と

○菹の中と和一氣依  
ろろ一嘔とやめス  
あざかひくろらん酒毒  
と解と扁豆籬豆眉豆  
かへふ同

○胡麻ハ氣カとす一肌  
肉と長一筋骨とろろ  
一大小腸と利一耳目  
とろろ

○嬰粟ハ風毒とろろ邪  
熱とい疾と治一及胃と  
治一の

○蒼耳豆ハ胃とろろ  
腕腑と和と一胡豆  
かづく

○玉黍ハ氣とま一中と和  
一腹とろろ小なんと利と

○蜀黍ハ中ハのろ腸  
胃とろろ一ろろ

治と蘆綠萩絲同  
○刀豆ハ中とろろ氣依  
ろろ一腸胃と利一とや  
ろろハの腎とま一え  
とろろ

○藜豆ハ中とろろ胃と  
ま一小便とろろと狸豆

麻

豆



菽

荅

藜



本草綱目卷之六

虎豆こづなりびに同  
 ○燕いん麥ばくのわきく平へいどく  
 かり飢うとをくひ腸ちやうどか  
 めりふふ一いち名な雀さく麥ばくふり  
 ○穗かのねのりかり苳じゆる  
 のご批いのふひさせ今いま按あんど  
 ふみよさ  
 ○藁わうここかり禾こ稗ばい禾こ  
 穰じやう稻たう草そうかりこ同どう稗ばい  
 心しんここまま楷かい藍らん結けつ並へい同  
 ○穀こくりこ禾こ麻ま粟も麥ばく豆とう  
 おもお瓜か五ご穀こくといい種しゆと  
 たたの稔れんへへととぬぬ  
 ○其きののままららががららかりかり琪き同  
 魏ぎの曹そう植ちつ詩しふふつつととり  
 ○茨いののままららののままららかりかり  
 豆づ角かくかりかり藿くわいいままめめと  
 かりかり馬まここ瓜かととぬぬ  
 ○饅まん頭とういいのの肉にく餡あんととも  
 ちちひひ一いち車しやかりかり小せう豆とう餡あん  
 のの瓜か素そ饅まんととのの餡あん  
 方かのの瓜かとと蒸じやう餅へいととぬぬ  
 今いまのの新しん製せい品ひんのの唐たう  
 饅まん頭とうのの瓜かのの饅まん餅へい饅まん  
 頭とうのの瓜かのの饅まん餅へい饅まん  
 ○飯いののいいかりかりススカカー  
 強きやう飯いののいい赤せき飯いののあ  
 ききかりかり乾かん飯いののいい水すい  
 飯いのの湯たうづづかりかり補ほ麥ばく飯い  
 じじかりかり粟も飯いののいいののいい



本草綱目卷之八  
 豆部  
 一  
 豆

豆書地神説家廣集十

○餅へいのりら麩餅めんべい方りと  
 糕こうの粉餅こなべいあり團子だんご方りと  
 飯團いひだんのりら補栗餅くりべいと  
 わりら艾餅あひべいなりなり  
 ○糖とうのりら方り飴あめ同濕糖  
 へららわら錫しやくのりらわら也  
 どり小老人せうじんとママのりら  
 一種地黃ぢやうと名づる  
 餅もちのりら當時たうじ夏月かづきに専せん  
 小児せうじ小用せうじう也  
 ○糰だんごのりら方り糰だんご同糰  
 角黍かくしとマ楚その屈原くわんげんよ  
 ころまころままり糰だんごとマ  
 古ふるの葦あしの葉はにてつつここを  
 補おぎなひて糰だんごとママ小用せうじう  
 の糸いとめて糰だんごとママ小用せうじう

ゆり笹ささの葉はの腹はら中ちゆうに  
 ろろゆりゆりとママのりらわら  
 け瓜かぼ知ちしとママゆりゆりとマ  
 ぶぶ  
 ○索さく麩ふのりら方り糰だんごとマ  
 一名索餅さくべいとママ又温飽おんぼ  
 蕎麥そば切き冷ひや麥むぎ方り糰だんごとマ  
 へて麩類ふるいとママ  
 ○餅もちのりら俗しやくに伏兔ふくつとマ  
 豆まめのりらわら餅もちとマ油あぶら  
 堆たいとママ  
 ○環餅えんべいのりら方りわら  
 らわららの葉はあり糰だんご  
 餅膏もちこうとママ糰寒具もちかんぐとマ  
 つつ巧菓ちゆうかのりら



○酢漿すさむらいとをばりすこ  
載のりも書い俗た測ま潰つぶ  
とやくたると  
○焼餅やきもちの賢さとしとも書い一いち  
串くしにううるをこぐこる  
又またのそらそらににつつううてて結むす  
ゆゆと名なづく  
○柜こ救きうののううららかかうう孺にう  
とつとつてて飴あめややくくめめるる  
方かたにに俗た又また奥おく茶ちやととりりをを  
ああささとと飴あめををととつつひひかかと  
わわらら瓜うり若わかかかううとといいふふ  
○菓餅くわもちの餅もちととののりりとと  
菓くわわわづづららううかかうう又また錢せん  
餅もちとも書い一いち

頭書增補訓蒙圖彙卷之十七

菜蔬

○蕪菁わじやうの食くと消しょう一いち氣きと  
とと嗽せきややひひつつひひののふふとと人ひとの  
中ちゆうと通とつうししと人ひととととやや  
かかううとといいふふ  
○菜菔さいふの氣きと消しょう一いち食くと消しょう  
一いち痰たん咳かいと治ちやうしし中ちゆうとわわくく  
めめ大だい小せう便べんと利りと  
○芥かいの頭づつ中ちゆうの風かぜ熱ねつとささり  
酒しゆ後ごの熱ねつとささり大だい小せう  
腸ちゆうと利り一いち血ちゆう瓜かとと益えき  
○葱しゆんの汗あせと殺ころし風かぜと去き



け部けぶふふののああくくのの野や菜さい  
苑えん蔬そののををぐぐららとといいふふ



頭書增補訓蒙圖彙卷之十七